

座右の銘

吾唯知足

田代 聡 原爆放射線医科学研究所 細胞修復制御研究分野 教授



私の座右の銘は「吾唯知足（われただたるをしる）」です。この言葉は、必要以上を求めず、今あるものの価値を見つめ直し、与えられた環境の中で最善を尽くすことの大切さを教えてくれます。仏教や老子などの思想に由来する「知足（ちそく）」という教えを象徴的に表した言葉だそうです。

この言葉は、大学に進学する際に父から贈られたもので、以来、折に触れて思い出しながら今日まで歩んできました。学生時代にはその意味を十分に理解していたわけではありませんが、研究や教育、医療に携わる中で、多くの人々との出会いや経験を重ねるにつれて、この言葉の重みを実感するようになりました。

私は医学部ヨット部の顧問を務めていますが、部員が卒業する際に渡す色紙には、この「吾唯知足」という言葉を書いてきました。順風満帆のときだけでなく、思い通りにいかないときや困難に直面したときこそ、足ることを知り、仲間や支えてくれる人々への感謝を忘れず、一步一步前に進んでほしいという願いを込めています。「足るを知る」とは、決して現状に安住することではなく、自らに与えられた役割や機会を大切に、その中で誠実に努力を積み重ねていく姿勢であると、私は考えています。

よく遊び、よく学べ

二川 浩樹 大学院医系科学研究科 歯学分野 口腔生物工学 教授



私の座右の銘、あるいはモットーとしている言葉は『よく遊び、よく学べ』です。これはオンとオフを切り替えるという意味と同時に、浅原前学長がおっしゃっていた「学問は最高の遊びである」という言葉に非常に近い、より深い意味合いを込めています。

もちろん、論理的で厳密な理詰めの研究も、学問の基盤として非常に素晴らしいものだと考えています。しかし、私はそこに「遊び心」のエッセンスが加わった研究がもっと好きなのです。さらに言えば、研究の場においてだけでなく、教育の現場においても、この遊び心を大切にしたい指導を実践したいと常に考えています。

なぜなら、研究や教育において真面目にまっすぐ対象と向き合う誠実さが不可欠である一方で、ちょっとした捻りやユニークな工夫を凝らすことで、相手の驚きや興味をより強く引き出すことができるからです。単調で形式的なやり方に終始するのではなく、まずは自分自身が心からワクワクしながら取り組み、その純粋なワクワク感を相手の心にまで響かせることを大切にしています。その結果として、人々の知的好奇心を掻き立てることができれば最高です！

また、常に遊び心を持ち続けることは、精神的な余裕にも繋がります。壁にぶつかった時でもポジティブに人や物事に接することができ、いつも前向きで楽しい気持ちで課題に向き合うことができるのです。一つのことに真面目に没頭し深く掘り下げることも大切ですが、時には一歩下がって置かれた様々な状況そのものを楽しむ視点を持つてみると、思いもよらない新しい発見ができると思っています。